

令和7年10月27日(木)

ごみ収集パイプライン利用者の会 委員各位
自治会会長 管理組合理事長 各位
芦屋浜自治連合会 顧問 各位

ごみ収集パイプライン利用者の会
委員長 山口 能成

第 100回 ごみ収集パイプライン利用者の会 開催のご連絡

いつも当会の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

おかげさまで「ごみ収集パイプライン利用者の会」は、2015 年 11 月の発足以来、記念すべき第 100 回を迎えることができました。これもひとえに皆さまの継続的なご支援の賜物です。

今回は、約 6 か月ぶりに開催された「廃棄物減量推進審議会」と「パイプライン協議会」(会場:芦屋市環境処理センター)の内容をご報告いたします。

また、11 月のワーキング・グループにおけるパイプライン代替案の検討状況についても、中間報告を行います。

記

- 日時:11月27日(木曜) 19:30～20:30(最大 60 分)

- 予定議題

1. パイプライン障害発生
2. パイプライン協議会の報告
3. 廃棄物減量推進審議会の報告
4. ワーキング・グループからの報告
4. その他の話題

- 場所 : 芦屋浜センタービル 小会議室

- 今後の予定:

第101回利用者の会: 12月25日(木) 19:30～20:30

以上

今月の報告と検討項目

1. パイプライン障害発生

高浜2・4地区(賃貸)で、マナー違反ごみによるパイプライン詰まりが発生しました。芦屋市は外部業者とともに高圧洗浄で除去作業を進めていますが、多額の公費が必要となっています。わずかな不適切排出が、重要な財源を浪費させる深刻な問題であることを改めて共有します。

2. パイプライン協議会の報告

11月15日(土)に芦屋市・TMESとの協議会を開催しました。主な内容は、

- ・令和7年4～9月期の運転状況報告
- ・上期の異常要因と現実的対策案
- ・年次報告書(案)

です。当日の議論内容を含めて詳細をご報告します。

3. 廃棄物減量推進審議会の報告

10月31日に開催された審議会へ出席し、以下の内容について説明を受けました。

- ・環境処理センターの改修計画
- ・令和8年度「一般廃棄物処理基本計画」策定の流れ
- ・芦屋市のごみ量・課題・リサイクルの現状
- ・基本計画改定に向けた市民アンケート案
- ・令和6年度の減量化対策と現状
- ・これらのポイントを整理して報告します。

4. ワーキング・グループからの報告

11月19日(水)に代替案検討会を実施しました。

- ・2025～2027年度の全体スケジュールを確認
- ・専門ファシリテーターの支援を活用し、来年度に実証実験を行う方向で協議
- ・代替案の基本理念・基本方針を再整理
- ・各代替案の設置候補場所について具体的に検討

今後も芦屋市と利用者の会が協力し、新しい収集システムの合意形成を進めていきます。

5. その他の話題

検討の効率化のため、ワーキング・グループは月1回から月2回の開催に変更することとなりました。

第99回 ごみ収集パイプライン利用者の会 議事録

日時	2025年10月30日 19:30～20:30
場所	芦屋浜 センタービル3F 会議室
参加者	青木(アステム D 棟)、友田・勝山(アステム C 棟)、村山(芦屋浜第1住宅)、本田(浜風町第 4 住宅)、末友・小林(新浜町住宅)、三浦・池西(ラ・ヴェール芦屋Ⅱ)、松木(ラ・ヴェール芦屋Ⅲ)、三宅・山口(アステム A・B 棟)、辛川(芦屋浜第2住宅)、河本・高木(緑第二住宅)、東条(緑第三住宅)、大田(潮見南)、奥野(潮見第二住宅)、春木(南浜 1 街区)、川島(市議) 合計19名
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. リチウムイオン電池の処分方法のチラシ配布 2. パイプライン運転状況 3. ワーキング・グループからの報告 4. ごみ減量の方法 5. 請求書の配布 6. その他の話題

1. リチウムイオン電池の処分方法のチラシ配布

委員長より、芦屋市作成の「リチウムイオン電池の出し方」に関するチラシを、利用者の会の会費を用いて約 6,000 枚カラー印刷し、現在各団体を通じて配布中である旨の報告があった。印刷費用は約 12,000 円で、今後は自治会ルートでの配布に加え、学校等への配布も検討していることが説明された。リチウムイオン電池が一般ごみに混入すると、圧縮やベルトコンベア等の工程で発火し、焼却施設の火災・高額な損傷につながる全国的事例が紹介され、透明袋に入れ「リチウムイオン電池」と明記して排出するように改めて周知が呼びかけられた。

【質疑応答】

出席者から、チラシ右下に「芦屋市環境施設課」と記載されているのに、なぜ利用者の会が印刷・配布しているのかとの質問があった。これに対し、チラシ自体は芦屋市が作成したものであるが、市がパイプライン地域だけに市費で配布することは難しいため、利用者の会が原稿提供を受け、自主的に印刷・配布している経緯が説明された。また、審議会の場でもこの点を市側に伝える予定であることが共有された。

2. パイプライン運転状況

ワーキング・グループでの報告をもとに、直近 3 か月のパイプライン運転実績について説明があった。

収集ごみ量は 3 か月で約 552,950kg となり、前年度比で 112%と増加しているが、その主因は降雨時に輸送管内へ流入した水分がごみ重量としてカウントされるためであり、実際のごみ量自体が増えているわけではないとの説明がなされた。一方で、ブロワ運転時間は前年同期間比 94%、電力量は 95%となり、それぞれ約 6%・5%の削減が達成され、CO₂排出量も 5%程度削減されていることが報告された。

投入口の赤ランプ点灯状況については、芦屋浜地区 100 投入口のうち、早朝 5 時時点で月曜日に赤ランプが多く、日曜のごみが持ち越されるためであること、7 月 7 日には 44 カ所(44%)が赤ランプであったことなどが示された。

ごみは毎日 5 時～6 時半にかけて順次吸引するが、システムダウン等のトラブルが生じた場合は人手による操作が必要となり、一部で 7 時台まで回収がずれ込む事例があることも説明された。

月平均では、約 2 割の投入口で日々何らかの赤ランプ状態が発生しているとの整理がなされた。

過去に、朝一番では「満杯の投入口のみ吸引する」という省エネ運転を試行し、電力量を約 2 割削減できたが、通勤前にごみを出したい住民からの苦情が多く、現在は全投入口を対象に朝の吸引を実施していることが紹介された。今後、電力量をさらに減らす運転方法は検討課題であるが、利用者の利便性と省エネのバランスに留意する必要があるとの見解が示された。

【質疑応答】

出席者から、月曜日早朝の赤ランプの多さや、日曜のごみ対応について質問があり、土曜日午後に全棟一斉吸引を行うことで日曜午前中までは比較的捨てやすいが、日曜午後～夜は満杯になりやすいことが説明された。

また、さらなる電力削減の余地について、から運転時間の短縮や、AI 等を用いた最適運転制御の可能性に関する意見が出されたが、現状では環境処理センター側に十分な技術的体制がなく、市側が主体的に提案しづらい分、利用者の会側からの提案・後押しも必要との見解が示された。

3. ワーキング・グループからの報告

パイプライン補修および代替案検討に関するワーキング・グループ(WG)の状況が報告された。配布資料をもとに、芦屋市の入札情報では、輸送管の本体交換ではなく、「傷んだ区間の掘削と内張り等による補修」を目的とした工事(約 740 万円規模)が再入札となっているが、1 回目に続き 2 回目

入札時点でも応札がない状況であることが共有された。パイプラインの将来的廃止が既定路線とみなされていることも影響し、事業者が参入しにくい可能性があるとの補足があった。

また、芦屋市指定ごみ袋の使用状況について、市全域では非パイプライン地域での使用率が約 99%に達している一方、パイプライン地域では約 50%にとどまっていると市から指摘を受けたことが報告された。

これは、点検業者 TMES が投入口内の袋を目視確認した結果に基づく概算値である。委員長は、現場の印象としては指定袋使用率はもっと高いように感じると述べつつも、利用者の会として指定袋使用を一層促す必要性を認識していることを述べた。

【質疑応答】

指定袋使用率 50%という数字の根拠について質問があり、前述のとおり TMES による投入口内部の目視確認に基づく概算であるとの説明があった。また、指定袋を使わない住民への注意のしかたについて、実際に声掛けをした際に強い反発を受けた経験が複数紹介され、注意する側の心理的負担の大きさが共有された。

今後は、掲示物の更新(指定袋使用の再掲示)や、利用者の会ホームページ等を通じた啓発に重点を置き、個々人への直接的な注意は慎重に行うべきとの意見が出された。

さらに、パイプライン代替案検討の情報提供について質問があり、委員長からは、現在 WG 内で 4 つのパターン(戸建・高層・中層など)の複数案を整理中であり、ファシリテーターも導入して議論を進めている段階であるため、もう少し案が具体化した時点で、利用者の会に対しても改めて報告したいと回答があった。

4. ごみ減量の方法

配布資料をもとに、日本および芦屋市のごみ量と処理費用の現状が説明された。日本全体のごみ処理費用は約 2 兆 2,912 億円で、国民一人あたり年間約 18,300 円に相当すること、1 人 1 日あたりのごみ排出量は約 851g で、長期的には減少傾向にあることが紹介された。

兵庫県内市町別ランキングでは、芦屋市は 1 人 1 日あたり約 820g で、全体で 21 位と中程度の位置にあり、神戸市よりは少ないものの、西宮市・宝塚市よりは多い水準であることが説明された。

ごみの組成については、東京都データでは可燃ごみ中の約 30%が生ごみ、約 28%が紙、約 17%がプラスチックであり、芦屋市の調査でも可燃ごみの約 40%が水分、約 40%が紙であるとの結果が示された。このため、委員長からは、「水分」と「紙」を優先的に減らすことが、ごみ重量削減と焼却コスト・CO₂削減に最も効果的であるとの提案があった。

生ごみ対策としては、①水切りの徹底、②新聞紙等による包み込み、③手絞り・水切り器具の活用などに加え、④家庭用生ごみ乾燥機の導入が紹介された。芦屋市では乾燥機購入に対する補助金(購入額の 1/2、上限 2 万円)があり、3 万円台の機種であれば自己負担を抑えて導入できることが説明された。委員長自身も補助金を活用して「パリパリ」に乾燥させる機種の導入を検討している旨を共有した。

また、コンポストによる生ごみの堆肥化も紹介されたが、マンションでは臭気・虫の問題や、生成された土の受け入れ先がないことが大きな課題であるとの指摘もなされた。

さらに、プラスチックごみについては、国際的な交渉が難航していること、マイクロプラスチックの人体への影響や、発達障害との関連性が指摘され始めていることが紹介され、将来的なリスクを踏まえつつ、過剰包装の削減やマイボトル利用など、身近な取り組みの重要性が強調された。

国の基本方針としての 3R(リデュース・リユース・リサイクル)に加え、リフューズ(不要なものは買わない)を含む「4R」の考え方も紹介された。

最後に、東京ガスと東京家政大学が作成した「ごみゼロ生活」冊子に基づき、ごみ減量には「知識」と「行動」が不可欠であり、ワークシートに目標と行動計画を書き出し、自分自身を「褒める／ご褒美を設定する」ことで 2 週間を乗り切れば、行動が習慣化しやすいとの説明があった。委員長からは、利用者の会としては特に「生ごみの水分」と「紙(雑紙)の資源回収」を重点テーマとして取り組みたいとの方針が示された。

【質疑応答】

出席者から、実際にコンポストを利用した経験として、発酵臭やウジ虫発生などの問題があり、家庭内では継続が難しかったとの報告があった。また、コンポストで生成された土の処分先について、芦屋市環境センターでは引き取りができず、産廃処理業者を案内されるのみで費用負担も大きいことから、「コンポストを推奨しつつ、土の引き取り拠点を整備していないのは矛盾ではないか」との指摘がなされた。

委員長は、この点を翌日の廃棄物減量推進審議会で取り上げ、コンポスト堆肥の引き取り場所の設置を要望したいと回答した。

また、プラスチックの回収開始時期や方法について質問があり、審議会では「プラスチック資源回収の方向性」は決定済みだが、具体的な開始時期・収集方法・体制については未定であり、他都市のベストプラクティスも参考にしながら慎重に検討している段階であるとの説明があった。

5. 請求書の配布(年会費)

事務局より、利用者の会の本年度年会費(1 団体あたり 6,000 円)の請求状況について報告があった。すでに一部団体には請求書を手渡し済みであるが、芦屋浜自治連合会など一部の団体については、利用者の会から直接請求せず、自治連合会側で取りまとめて支払う方式としていることが説明された。各団体には、順次請求書を配布するので、内容確認のうえ期日までの納入に協力をお願いしたい旨が伝えられた。

【質疑応答】

年会費の金額や使途について特段の異論・質問はなく、リチウムイオン電池チラシの印刷費など、利用者の会による啓発活動のために活用されていることが確認された。

6. その他の話題

ホームページ関連では、利用者の会ホームページのメニュー構成に関する改善として、「案内」「議事録」など複数メニューを個別に開かなくても済むよう、「全部」という一括表示メニューを新設したことが報告された。今後、今回の資料や議論内容も順次アップロードする予定であることが説明された。

パイプライン代替案検討については、WG 内で議論がなお錯綜していること、ファシリテーターを導入しているものの、整理には時間を要していることが共有された。委員長からは、ある段階で利用者の会の定例時間をまるごと「代替案紹介と意見交換」の時間に充てることも視野に入れており、戸建・高層・中層など居住形態別に 3 案程度ずつ提示する方向で検討しているとの見通しが示された。

また、第 100 回という節目の開催であることから、マスメディアへの情報提供(プレスリリース)の可能性について意見が出され、市民運動として 100 回継続していること自体にニュース価値があるのではないかと指摘があった。これに対し、委員長からは、過去にもテレビ番組や新聞で取り上げられたが、メディア側の編集方針とのギャップや、映してほしい点が十分伝わらなかった経験もあり、現時点では内部での議論と合意形成を優先したいとの考えが示された。ただし、将来パイプライン代替案が具体化し、市民参加型のプロセスを示せる段階になれば、改めて情報発信を検討したいとの意向が述べられた。

以上

1. パイプライン障害発生

11月7日および8日に（高浜町 2街区:05059、05069、05079、高浜町 4街区:05099）で輸送管内でごみが堆積し、パイプラインが停止しています。解決するために管内部洗浄を11月15日(土)、11月21日(土)、11月22日(日)に予定しています。なお、11月12日(水)から詰まり解消作業完了まで週3回(月・水・金 8:30収集)臨時収集があります。

利用者の会の皆様へ

パイプライン障害発生の連絡

11月11日

項目	内容
発生日・時刻	2025年11月7日（高浜町 2街区:05059、05069、05079）、 11月8日（高浜町 4街区:05099）
連絡日	メール送信: 1回目:2025年11月7日 17:30頃 2回目:2025年11月11日 12:00頃
場所	高浜町 2・4街区
影響投入口 番号	05059、05069、05079、 05099
障 害 内 容	パイプライン閉塞 ・ 機械の故障 ・ 内部浸水 ・ 工事等 ・ その他 詳細:輸送管内でごみが堆積し、パイプラインが停止しました。
原因	調査（済 ・ <u>継続中</u> ） ・ 原因不明 ・具体的な内容 ごみの堆積（ ） ・写真: <input type="checkbox"/> 別添 <input checked="" type="checkbox"/> 無
臨 時 収 集	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 期間 11月12日(水)～ 詰まり解消作業完了まで（ まで・ <u>未定</u> ） 備考 <input type="checkbox"/> 月～土(8:30収集)対応 <input checked="" type="checkbox"/> 週3回(月・水・金 8:30収集)対応
復 旧 予 定	<input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input checked="" type="checkbox"/> 管内部洗浄 対応時期(<u>確定:11月15日(土)、11月21日(土)、11月22日(日)</u>) ・ 未定※調整中) 備考 <input type="checkbox"/> その他(対応内容:) 対応時期(確定 月 日 ・ 未定※調整中) 備考
利用者の 対 応 行 動	<input type="checkbox"/> 一時的な各自ごみの保管 <input type="checkbox"/> (他の)投入口へごみを投入ください。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(赤ランプの点灯時は近隣の投入口へごみを投入ください。)
注意事項	<input checked="" type="checkbox"/> (投入口:): 臨時収集です。11月12日以降は投入口(05059、05069、05079、05099)へ投入しないでください。 <input type="checkbox"/> しばらくごみは各自保管願います。 <input type="checkbox"/> その他()

内容	写真
<p>高浜町2 投入口 05059 下流の 点検口から取り出した ごみの写真(ドライヤー や丸形蛍光灯器具な ど)</p>	
<p>高浜町4 投入口 05099 の下 流より取り出したごみ の写真 (タブレット(左下)・ 洗濯物干しの一部 (中央下)・ 鞆(中央付近)・ 紙類(右上)・ セロテープの台座 (中央))</p>	

11月15日(土)に高浜町4街区(投入口:05099)にて管内洗浄作業を実施いたしましたし、その結果、詰まりが解消されたため、運転を開始しております。投入口:5099 に貼り付ける違反投入物の啓発ビラ等は現在手配中になります(11月17日現在)。

2. ゴミパイプライン協議会からの報告

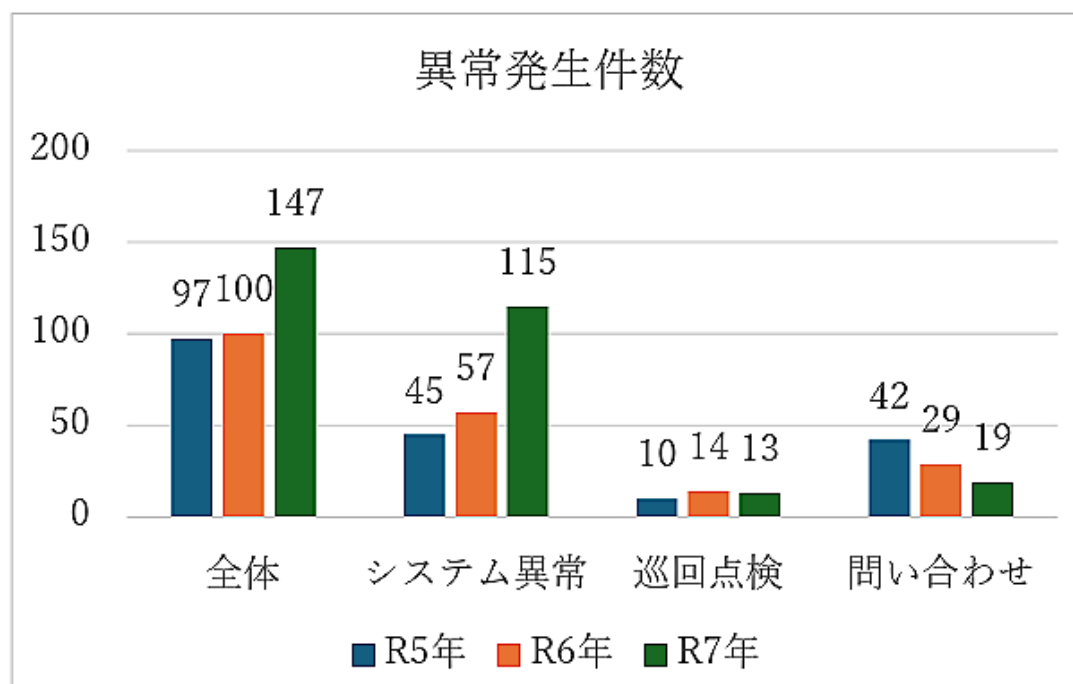
11月15日(土曜)に芦屋市・TMES とゴミパイプライン協議会を開催しましたので報告します。

1. 令和7年4月から9月までのパイプラインの運転報告について

パイプライン運転報告(令和7年4月1日～9月30日)

異常発生件数の推移(年度別比較)

年度	全体	システム異常	巡回点検	問い合わせ
R5年	97件	45件	10件	42件
R6年	100件	57件	14件	29件
R7年	147件	115件	13件	19件



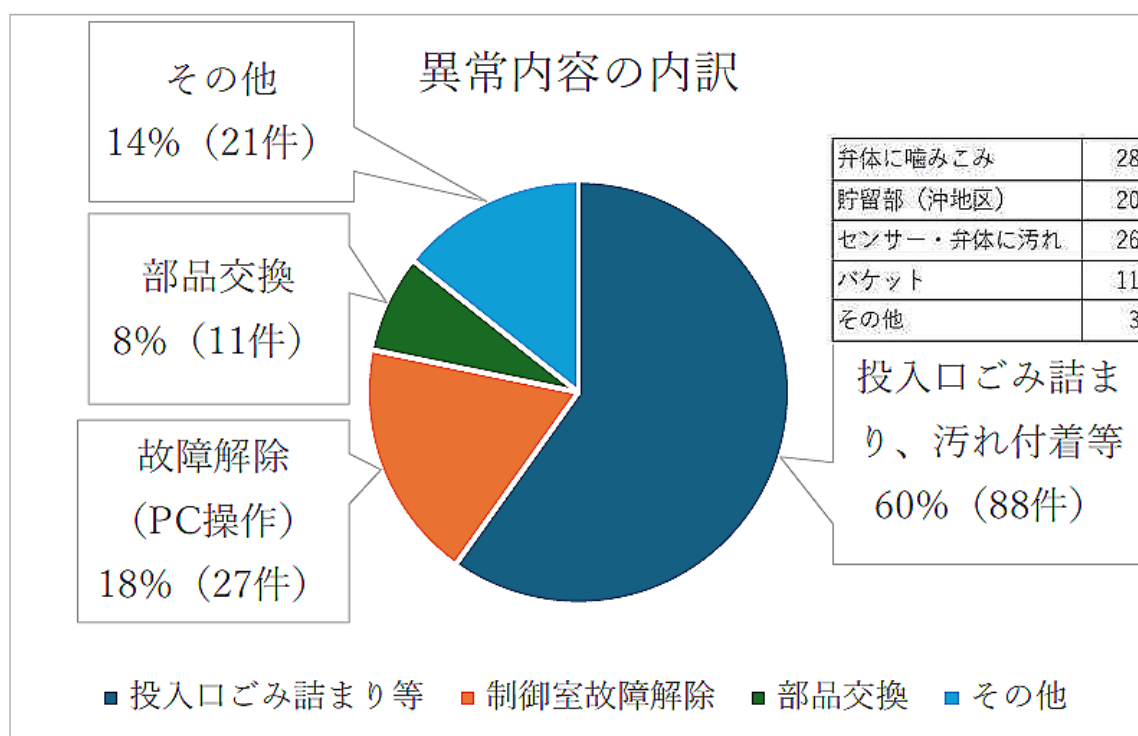
分析: 令和7年度は、システム異常の増加により、全体の異常件数が大幅に増加しました。特に「投入口ごみ詰まり等」が88件と多く、主な原因は以下の通りです。

- 弁体へのごみ噛みこみ

- 貯留部へのごみ堆積
- センサー・弁体の汚れ
- バケット下部でのごみ詰まり
- また、浸入水によるセンサー汚れが異常発生の一因となっているケースも多く見られました。

主な異常内容の内訳

異常内容	件数
● 投入口ごみ詰まり等	88 件
● 制御室故障解除	27 件
● 部品交換	11 件
● その他	21 件



特記事項

- 鍵穴の位置ずれ: 4 件(前年 7 件)
→ 啓発ビラの効果が現れており、件数が減少しています。
- 住民起因ごみによるバケット投入不具合: 11 件(前年 14 件)
→ 高浜町および若葉町において、輸送管閉塞を引き起こすごみの投入が多く見られました。
→ 輸送管詰まりにより風速が低下し、弁体へのごみ噛みこみ異常に繋がるため、今後も注意喚起が必要です。

令和 7 年度上期 パイプライン異常要因と現実的対策(提案書)

作成:山口能成

1. 背景

令和 7 年度上期(4~9 月)のパイプライン異常発生件数は 147 件となり、前年度(100 件)から大幅に増加した。主因は以下の三点に集約される。

- ・ 投入口ごみ詰まり等の多発:88 件
- ・ 弁体・センサーの汚れ・浸入水による誤作動:26 件
- ・ 住民起因ごみによる投入不具合:11 件

一方で、輸送管本体は経年劣化が進み、亀裂補修に数千万円規模の費用が想定されている。さらに、当施設は残り約 10 年から廃止予定であり、方針として 大型投資・予防保全の実施は困難である。

したがって本提案では、施設寿命を延ばすための低コスト・運用改善型の対策に限定して整理した。

2. 現状の主要課題(パイプライン運転報告書より)

1. 異常件数が 147 件へ増加
2. 投入口ごみ詰まり等が全体の約 6 割(88 件)を占める
3. 弁体・センサー・貯留部の汚れが異常の主要因
4. 浸入水によるセンサー汚れが増加傾向
5. 住民起因ごみ 11 件が輸送管閉塞を誘発
6. 高浜町・若葉町での不具合集中
7. 部品交換 11 件と老朽化進行
8. 鍵を途中で抜く問題 4 件

以上の課題は、設備投資ではなく、運転管理改善・住民啓発・小規模対策で対応する必要がある。

3. 現実的な対策(費用をかけない方針に沿った提案)

(1)高湿時期前の重点清掃プログラムの実施

- ・ 清掃対象:弁体、センサー、貯留部
- ・ 根拠:浸入水・汚れが異常原因として報告
- ・ 方法:既存委託の範囲内で清掃周期を調整:特に浜風町
- ・ 効果:雨天時の誤作動・風速低下を大幅に抑止

〈意見〉これは費用を伴わず効果が高い。最優先で実施すべきである。

(2)重点地区(高浜町・若葉町)でのミニ啓発+投入口掲示更新

- ・ 内容:
 - ・ 投入口前に A5 サイズ「入れてはいけないもの」掲示
 - ・ 新入居者向け 1 枚チラシの常備

- ・ 根拠:住民起因ごみ 11 件の大半が同地区に集中
- ・ 費用:掲示物作成費(軽微):利用者の会では年次報告書で啓蒙
〈意見〉住民行動が異常原因の一部である以上、最も実効性が高い。

(3)月次「異常要因サマリー」を芦屋市と共有

- ・ 内容:異常件数・要因・雨天関連を簡易レポート(A4・1 枚)化
- ・ 目的:
 - ・行政側に現場状況を定量的に示す
 - ・将来の廃止判断および代替方式検討の基礎データとする
- ・ 費用:作成工数のみ

〈意見〉廃止前提の施設である以上、「行政との情報共有」は必須である。

異常要因サマリー」とは

現在の運転報告は、半期に 1 回で、しかも設備目線で書かれているため、パイプライン全般の判断材料としては弱い。そこで、毎月の「異常の推移」運転報告と異なり、利用者側が運用・行動改善の視点で作成するレポート。

● 特徴

期間:毎月 1 回(1 ヶ月ごと)

作成主体:毎月の運転報告を受けてゴミ収集パイプライン利用者の会が作成

内容:

- 1) 今月の異常件数
- 2) 原因別内訳(詰まり・浸入水・住民起因など)
- 3) 雨天日との関連(降雨時に異常が増えたか)
- 4) 問題箇所(高浜町・若葉町など重点地区)
- 5) 利用者の会としての考察・意見(簡潔に 5 行)

4. まとめ(意見)

本年度の異常増加は、「詰まり」「汚れ」「浸入水」「住民起因」の複数要因が重なっている。しかし、施設は老朽終末期にあり、大規模補修・予防保全は現実的ではない。

したがって、今後 10 年の寿命を安定的に維持するためには、以下の三つの柱に戦略を絞る必要がある。

- ① 運転管理の最適化(重点清掃)
- ② 住民行動改善(重点地区啓発—若葉町・高浜町の賃貸住宅)
- ③ 行政との情報共有強化(廃止に向けた代替案の準備)

この三点は費用を伴わず、かつ効果が大きい。

これらを確実に実行することが、現実的かつ最善の対応であると考えている。

3. パイプラインの年次報告書(案)

昨年度のパイプラインに関する年次報告書案が作成され、報告されました。なお、これから議会へ提出し承認される予定です。

廃棄物運搬用パイプライン施設の年次報告（令和6年度）【案】

令和6年度の廃棄物運搬用パイプライン施設の運用状況を報告いたします。

記

1. パイプライン施設年間基本データ（3か年の実績）

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	R6/ R5 対比
収集量（t）※1	2,004	2,152	2,012	93.4%
収集人口（人）※2	14,321	14,055	13,860	98.6%
収集世帯（世帯）※2	7,122	7,067	7,026	99.4%
処理経費（円）	237,998,726	221,441,975	232,917,995	100.8%
電力使用量（kwh）	1,201,932	1,159,907	1,115,134	96.1%

※1 収集量には、臨時の車収集のごみ量も含む（R4:29t、R5:58t、R6:71t）

※2 人口及び世帯数は住民基本台帳（日本人＋外国人）（10月1日）の値

2. 処理経費の内訳（2か年の実績）（単位：円）

項目	令和5年度	令和6年度	R6/R5 対比	備考（R6）
需用費	4,740,560	5,537,620	116.8%	内貼補修材の購入
委託料	108,117,521	118,960,819	110.0%	包括業務費用（電気代含む）
工事請負費	94,140,800	90,348,500	96.0%	穴あき補修工事、電気設備補修工事
備品購入費	0	1,385,450	-	ごみカート
負担金、補助金及び交付金	120,000	200,000	166.7%	共同溝負担金
補償、補填及び賠償金	0	0	0%	
人件費	14,323,094	16,485,606	115.1%	職員（給料、共済等）

- ・ 需用費は、令和6年度に内貼補修材の購入量が増加したため、増額した。
- ・ 委託費は、臨時の車収集の回数が増加したため、増額した。
- ・ 備品購入費は、ごみカートを購入したため、発生した。
- ・ 負担金、補助金及び交付金は、「芦屋浜共同溝付帯設備管理協議会」の毎年の負担金が増加したため、増額した。

3 運転状況

(1) 輸送管のつまり等に伴う運転停止

- ・ 輸送管の老朽化に伴う運転停止（主に雨水の侵入） 5回
- ・ マナー違反投棄に伴う運転停止 0回
- ・ 工事施工に伴う運転停止 2回

4 輸送管の穴あき補修

(1) 管の部分取替え：

4箇所（浜風町約6m、新浜町約4.3m、高浜町約5.7m、緑町約2m）

(2) 補修・仮補修：

18箇所（浜風町、新浜町、高浜町、若葉町、緑町）

5 利用者の会との話し合い

(1) ゴミパイプライン協議会の開催 3回開催

令和6年度の具体的な協議内容は、パイプライン運転報告、運転方法変更の改善提案、代替収集に向けたロードマップの更新、パイプライン施設の年次報告、ファシリテーター導入の決議など。

(2) ワーキング・グループの開催 12回開催

令和6年度の具体的な検討内容は、電力使用量（CO₂）削減のため利便性も考慮した運転方法、ごみカートの導入について、ファシリテーター導入に向けての準備など。

ワーキング・グループでは、運転方法の工夫を行うなどで、CO₂排出量削減に取り組んでいます。

年度	電力使用量 (kwh)	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	削減率
基準 (H18～H25 平均)	1,384,920	692,460	
令和 4 年度	1,201,932	600,966	13.2%
令和 5 年度	1,159,907	579,954	16.2%
令和 6 年度	1,115,134	557,567	19.5%

※CO₂排出係数を 0.5kg-CO₂/kwh で計算しています。

※電力使用量は、取引メーター按分値で計算しています。

4. ごみ減量推進審議会からの報告

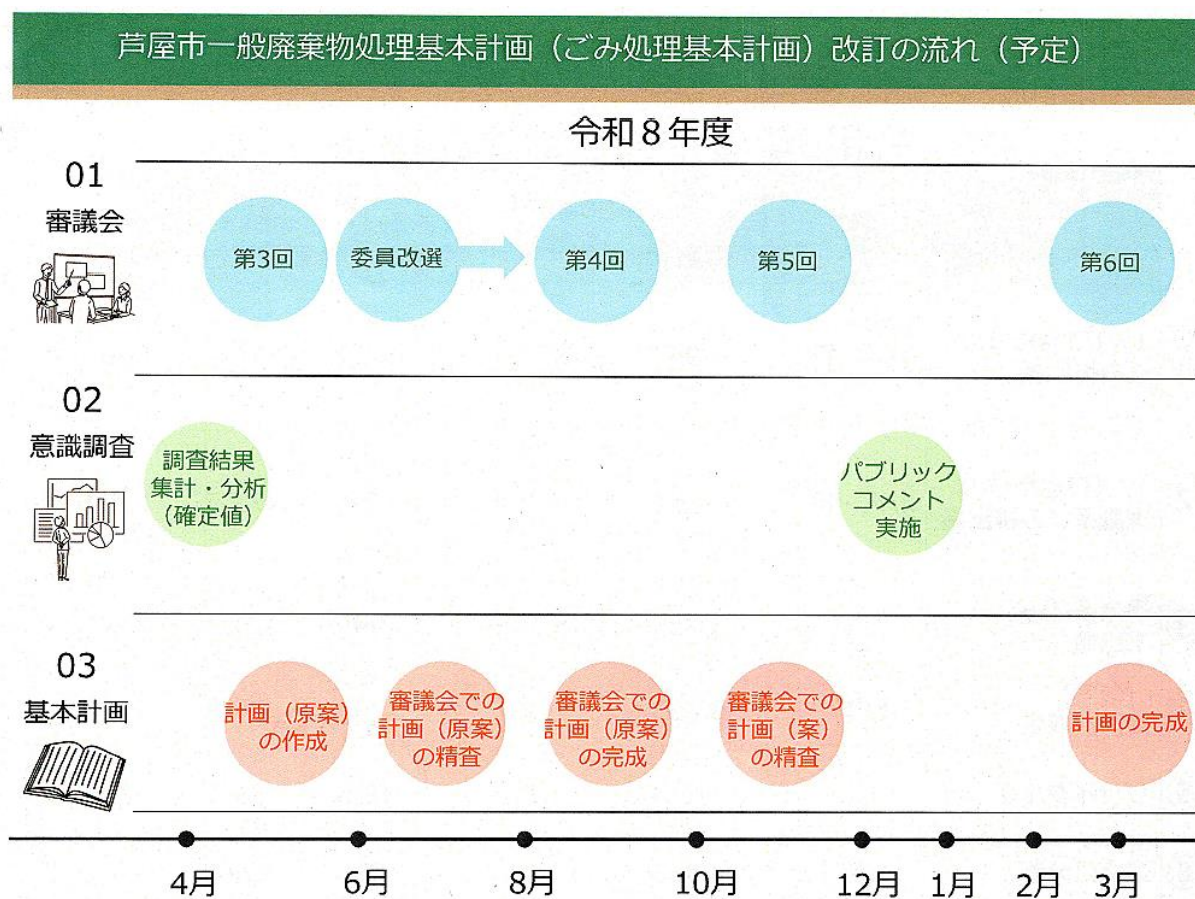
10月31日(金)に芦屋市環境処理センターで第2回「ごみ減量推進審議会」が開催されましたので、その内容を報告します。

1. 環境処理センター改修工事予定

今後の大まかなスケジュールは下記の通りです

- ① 基本計画 令和4年度～令和7年度
- ② 中継施設 ～令和12年4月
- ③ 資源化施設 ～令和15年4月

2. 一般廃棄物処理基本計画(令和8年度)



審議会委員(10名)の任期は2年で、令和8年度7月までです。この後、新しい委員が決定します。委員の選出は、大学教授から2名、企業から2名、市民から2名、芦屋市自治連合会から1名、その他数名となっています。

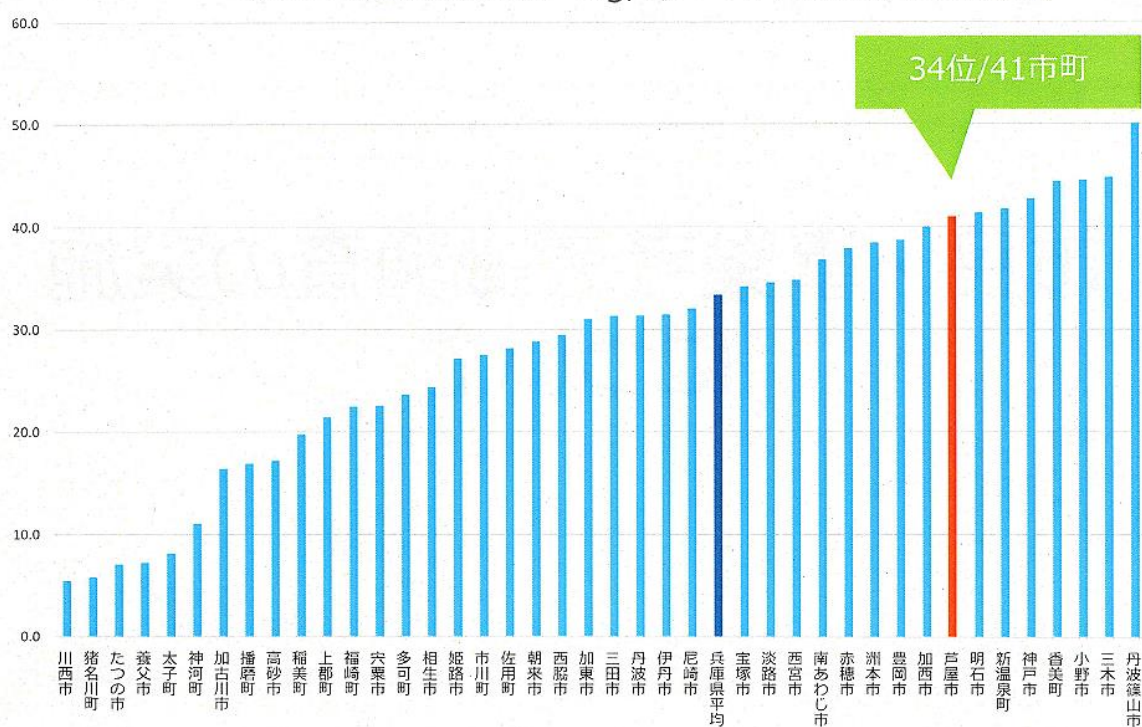
3. 芦屋市のごみの現状と課題

令和8年度中間目標達成状況

	項目	単位	R2年度 実績値 (基準値)	R6年度 実績値	R6年度 (参考) 目標値	R8年度 中間 目標値	R13年度 最終 目標値
①	1人1日当たりのごみ排出量	g/人・日	943	837.8	886.1	874.4	869.1
②	1人1日当たりの家庭系ごみ排出量	g/人・日	550	470.9	489.1	473.5	470
③	事業系ごみ排出量	t/年	8,385	8,170	7,995	7,762	7,407
④	(参考) 集団回収量	t/年	3,063	2,561			
⑤	リサイクル率	%	16.3	16.2	18.6	20.2	20.7
⑥	最終処分量	t/年	4,361	3,798	3,874	3,726	3,591

兵庫県内市町村比較(すべてのごみ量)

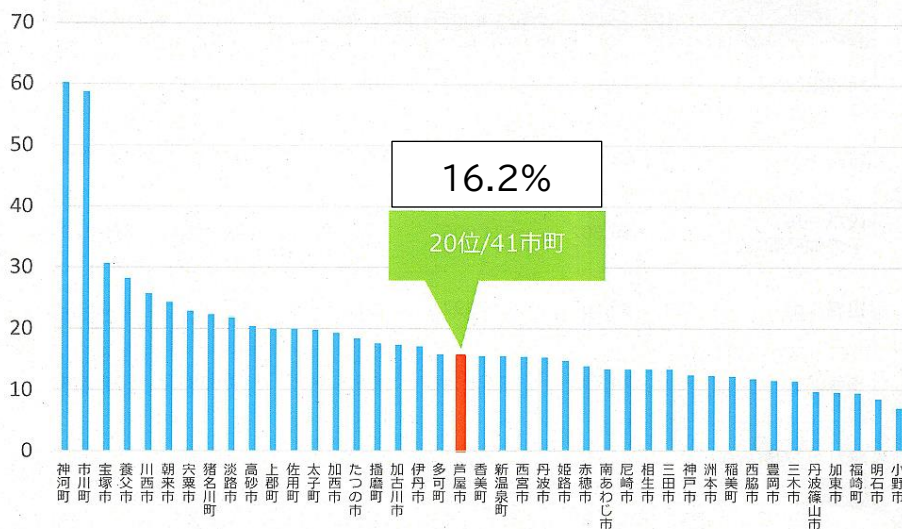
令和5年度最終処分量 (kg/人・年) 兵庫県内市町村比較



一般廃棄物実態調査より

リサイクルの現状

令和5年度リサイクル率（%）兵庫県内市町比較



項目\年度	直近5年の実績				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新聞紙(kg)	1,243,695	1,177,077	1,102,387	988,871	908,250
雑誌(kg)	1,008,066	926,294	864,191	818,731	800,701
段ボール その他紙類(kg)	659,602	674,906	666,396	659,199	675,129
古着(kg)	86,562	105,497	101,645	96,199	100,381
缶(kg)	74,703	76,374	75,579	74,658	76,234
紙パック類(kg)	1,454	1,587	1,312	805	734
合計(kg)	3,074,082	2,961,735	2,811,510	2,638,463	2,561,429

参考資料:世界のリサイクル率(米国は推測)

国	年度	廃棄物発生量	リサイクル率
EU	2023	79.7 Mt	42.1%
日本	2023	38.97 Mt	19.5%
米国	2018	292.4 Mt	32.1%

Mt は Megaton(メガトン) = 100 万トン(1,000,000 t) を意味します。

芦屋市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画改定に関するアンケート調査(案)

【市民対象調査票】

日頃より本市の廃棄物行政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。本市では、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき2022年3月に策定した「芦屋市一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理基本計画)」が中間目標年度を迎えることから、この間の社会情勢の変化等を踏まえた計画の見直しを行います。

つきましては、市民の皆様の日頃のごみ減量の取り組みの状況、ごみの減量に関するご意見などをお聞きし、計画の見直しのための基礎資料としていきたいと考えております。

この調査票は市内在住の18歳以上の方を無作為に抽出し送付させていただいています。今後の施策及び計画策定の他に使用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

なお、本調査につきましては、集計結果がまとまり次第、市のホームページ等で公表する予定です。

2026年2月芦屋市市民生活部環境・経済室環境施設課

配布数:2200人

実施:2026年2月

山口の修正提案

1. 質問の流れで、「関心」から「どんな行動をとっていますか」と聞いているが、行動の前に「ごみ減量の方法を知っていますか」と聞いて、その後で「行動」を聞いた方が回答の流れで回答しやすい。

2. 質問項目で「知っていても、行動しないのは何故か」を聞いていない。これを聞くことで対策が変わってくる可能性がある。

提案では、拝見した「芦屋市一般廃棄物処理基本計画改定アンケート案」は、非常に丁寧に構成されていますが、「行動意識(意図)」と「実際の行動(実践)」の乖離＝“言行不一致”を測定する視点がまだ不足しています。この観点を入れることで、米国WM Recycling社の「2025 RecyclingReport」で指摘されたような「知っているが行動していない」構造を可視化できます。

例:知っているが「実行していない」行動の把握(言行不一致の測定)
次の行動のうち、「できていると思っているが、実際にはあまり行っていない」ものを教えてください。(複数回答可)

資料3 市民・事業者意識調査（案）

ごみに関するアンケート調査

問1 あなた自身のことについてお聞きます。

1 あなたの性別を教えてください。（当てはまる番号1つに○）

- | | | | |
|-------|-------|----------------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 1、2のどちらでもない | 4. 答えたくない |
|-------|-------|----------------|-----------|

2 あなたの年齢を教えてください。（記入時点）（当てはまる番号1つに○）

- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 10歳代 | 2. 20歳代 | 3. 30歳代 | 4. 40歳代 |
| 5. 50歳代 | 6. 60歳代 | 7. 70歳代 | 8. 80歳以上 |

3 あなたと一緒に暮らしている家族構成は次のうちどれですか。（当てはまる番号1つに○）

- | | | |
|------------------|---------|----------------|
| 1. 単身世帯 | 2. 夫婦のみ | 3. 二世世代家族（親と子） |
| 4. 三世世代家族（親と子と孫） | 5. その他（ | |

4 あなたのお住まいの町を教えてください。〔町名を記入〕

芦屋市

5 あなたのお住まいは次のうちどれにあてはまりますか。（当てはまる番号1つに○）

- | | | |
|--------------------|---------------|-------------------|
| 1. 一戸建て | 2. 長屋建て（壁が共通） | 3. 低層共同住宅（3階建て以下） |
| 4. 中高層共同住宅（4階建て以上） | 5. 店舗・事務所付き住宅 | |
| 6. その他（ | | |

6 普段ごみをどのように出していますか。（当てはまる番号全てに○）

- | |
|----------------------------------|
| 1. ごみステーション |
| 2. アパートやマンションの敷地内のごみを出せるコンテナやごみ庫 |
| 3. パイプラインの投入口 |
| 4. さわやか収集（高齢者等のごみ出し支援）を利用したの収集 |
| 5. その他（ |

問2 あなたのごみについての意識や考え、取り組みについてお聞きます。

1 ごみの減量化やリサイクルなど、ごみ問題への関心についてお聞きます。

（1）ごみの減量化やリサイクルなど、ごみ問題への関心はありますか。（当てはまる番号1つに○）

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. ある程度関心がある | 3. あまり関心がない |
| 4. 全く関心がない | 5. どちらとも言えない | |

（2）日頃、ごみのことを考えて行動をしていますか。（当てはまる番号全てに○）

- | |
|--|
| 1. ごみを少なくする工夫をしている |
| 2. リサイクルを実践している |
| 3. ごみ問題は深刻と思いながらも、多くのものを買い、多くのものを捨てている |
| 4. ごみのことは考えず、多くのものを買い、多くのものを捨てている |
| 5. ごみのことは考えていないが、ものをあまり買わず、ごみは少ない |
| 6. その他（具体的に |

資料2 課題と進捗状況

No	取組の方針	課題	実施した施策	評価方法	目標値 (R8)	令和6年度末時点進捗状況 ○ 内はR2
1	家庭系燃や すごみ排出 量の削減	紙ごみの削減	本・古着の交換会 集団回収 牛乳パックリサイクル (商工会協定) 親子施設見学会 小学生施設見学会 小学校環境教育事業 (出前授業) 出前講座 広報あしやでの周知啓発	◎1人1日当たりの家庭 系ごみ排出量 (基本計画P.22)	473.5g/人・日	470.9g/人・日 (549.9g/人・日)
				燃やすごみにおける紙 類の割合 (湿重量)	目標値なし	37.7% (35.7%) ※R3
2		プラスチックごみの分別検討	プラスチック分別に向け検討中 広報あしやでの周知啓発	評価困難	目標値なし	
3	資源化の促 進	紙ごみの資源化促進	本・古着の交換会 集団回収 売却事業 (紙) 牛乳パックリサイクル (商工会協定) 親子施設見学会 小学生施設見学会 小学校環境教育事業 (出前授業) 出前講座 広報あしやでの周知啓発	○資源化施設処理量の 内訳における紙資源搬 出量 (基本計画P.47)	1,660 t/年	964 t/年 (1,093 t/年)
				集団回収における紙資 源回収量	目標値なし	2,385 t/年 (2,913 t/年)
4		集団回収登録団体の増加	集団回収 広報あしやでの周知啓発	登録団体数の増減	目標値なし	176団体 (181団体)
				集団回収量	目標値なし	2,561 t/年 (3,074 t/年)
			フードドライブ リユースフェスタ 環境フリーマーケット 本・古着の交換会 不用品のリユース (ジモティー協定) 不用品のリユース (おいくら協定) 集団回収 指定法人への引き渡し (ビン) 売却事業 (金属・紙・小型家電)	◎1人1日当たりのご み排出量 (基本計画P.22)	874.4g/人・日	837.8g/人・日 (943.1g/人・日)

6	最終処分量 の削減	ごみの再生利用の促進	<p>パソコンのリサイクル（リネットジャパン協定） 牛乳パックリサイクル（商工会協定） 廃食用油のリサイクル（ENEOS・植田油脂協定） 親子施設見学会 小学生施設見学会 小学校環境教育事業（出前授業） 出前講座 スリム・リサイクル宣言の店 広報あしやでの周知啓発</p>	◎最終処分量 （基本計画P.22）	3,726 t /年	3,798 t /年 (4,344 t /年)
			<p>本・古着の交換会 集団回収 指定法人への引き渡し（ビン・蛍光管等・リチウムイオン電池） 売却事業（金属・紙・小型家電） 焼却灰リサイクル 持ち去り行為の防止 ペットボトル水平リサイクル 指定ごみ袋制度 パソコンのリサイクル（リネットジャパン協定） 牛乳パックリサイクル（商工会協定） 廃食用油のリサイクル（ENEOS・植田油脂協定） 親子施設見学会 小学生施設見学会 小学校環境教育事業（出前授業） 出前講座 スリム・リサイクル宣言の店 広報あしやでの周知啓発</p>	◎リサイクル率 （基本計画P.22）	20.20%	16.2% (16.4%)

No	取組の方針	課題	実施した施策	評価方法	目標値 (R8)	令和6年度末時点進捗状況 () 内はR2
7	事業系排出者責任の徹底	排出者責任の啓発・指導	事業系ごみ違反対応 許可業者への指導・展開検査 広報あしやでの周知啓発 事業系ごみハンドブック	事業者意識調査における家庭ごみステーションの利用率	目標値なし	令和7年度意識調査結果 (15.2%)
8	事業系燃や すごみ排出 量の削減	分別の促進	事業系ごみ違反対応 許可業者への指導・展開検査	◎事業系ごみ排出量 (基本計画P.22)	7,702 t/年	8,170 t/年 (8,384 t/年)
9	中間処理施設 の整備	新施設整備計画の推進	神戸市・芦屋市一般廃棄物の広域処理 新施設整備検討	評価困難	目標値なし	-
10	プラスチック 製容器包装 の分別検 討	新施設整備に併せた検討	プラスチック分別に向け検討中 新施設整備検討	評価困難	目標値なし	-
11	安定したご み処理	ごみ出しルールの啓発・徹底	ごみ分別促進アプリ 広報あしやでの周知啓発 外国人啓発	評価困難	目標値なし	-
12		新施設整備に併せた安定運用	指定法人への引き渡し（リチウムイオン電池） 新施設整備検討 相互支援協定（阪神5市協定） 災害廃棄物の処理に関する基本協定（大栄環境協定）	評価困難	目標値なし	-
13	ごみに関す る情報提供	新たな啓発方法の検討	スリム・リサイクル宣言の店 ごみ分別促進アプリ 家庭ごみ収集カレンダー 外国人啓発 SNSの活用	評価困難	目標値なし	-
14		市民・事業者の求める情報提供	指定法人への引き渡し（リチウムイオン電池） 出前講座 スリム・リサイクル宣言の店 広報あしやでの周知啓発 SNSの活用	評価困難	目標値なし	-

			指定法人への引き渡し（リチウムイオン電池） 指定ごみ袋違反、分別違反対応 住みよい芦屋をつくるポスター展 親子施設見学会			
15	のゴミ出し ルールの徹 底	ごみ出しルールの啓発・徹底	小学校環境教育事業（出前授業） 出前講座 ごみ分別促進アプリ 広報あしやでの周知啓発 家庭ごみハンドブック 家庭ごみ収集カレンダー 外国人啓発 SNSの活用	評価困難	目標値なし	—
16		指定ごみ袋制度を広く周知（R5 ごみ処理実施計画より）	指定ごみ袋違反、分別違反対応 広報あしやでの周知啓発 家庭ごみハンドブック 家庭ごみ収集カレンダー 外国人啓発	評価困難	目標値なし	—
17	その他	危険ごみによる火災事故等の撲滅（R6ごみ処理実施計画より）	広報あしやでの周知啓発 ごみ分別促進アプリ SNSの活用 親子施設見学会 小学生施設見学会 小学校環境教育事業（出前授業） 出前講座	年間火災事故件数 （パッカー車・施設）	目標値なし	R4：1件・0件 R5：2件・0件 R6：0件・0件 R7：1件・0件
18		環境処理センターの施設整備に伴い、リサイクル事業そのものの在り方を再編する必要がある。（R7ごみ処理実施計画より）	本・古着の交換会 小学校環境教育事業（出前授業）	評価困難	目標値なし	—

◎は基本計画で定める目標値

○は基本計画の資料編にある目標値

5. 今月のワーキング・グループからの報告

1. 代替案の検討

2年間の全体スケジュール(2025～2027 年)この 2 年間のスケジュールは、ファシリテーターの専門的支援を活用しながら、芦屋市と利用者の会が協力して新しいごみ収集システムの合意形成と実現を目指すものである。

ステップ	期間	活動名
1	2025 年 1 月～3 月	<p>●ファシリテーター導入準備</p> <p>導入目的を明確化し、必要なスキルや役割を定義します。芦屋市と利用者の会が連携して基盤を整備する重要なステップとなる。</p>
2	2025 年 4 月～6 月	<p>●事前準備とファシリテーター選定</p> <p>公平かつ効果的な選定プロセスを実現するため、入札要件を整理し、最適な候補者を選出する。</p>
3	2025 年 7 月～8 月	<p>●キックオフ(活動開始)</p> <p>ファシリテーターと関係者全員が初めて顔を合わせ、全体計画を共有する。この段階でプロジェクトが本格始動する。</p>
4	2025 年 9 月～2025 年 12 月	<p>●代替施設案作成と月次議論の進行</p> <p>ファシリテーターの主導で、月次会議を通じて代替施設案を具体化する。議論を深めることで、建設的な解決策を導き出す。</p>
5	2026 年 1 月～3 月	<p>●実証実験のための代替案の検討と修正</p> <p>月次議論での成果をもとに、実証実験のための代替案を調整する。意見を集約し、関係者間の合意形成を進める。</p>
6	2026 年 4 月～5 月	<p>●実証実験準備(環境整備と住民調整)</p> <p>実証実験に向けた準備期間である。対象エリアを選定し、住民との調整や必要な設備の整備を行う。</p>
7	2026 年 6 月～11 月	<p>●実証実験の実施とデータ収集</p> <p>実際の運用を試行する期間である。実験を通じて得られるデータを分析し、課題を明確化する。</p> <p>●代替施設案の意見集約</p> <p>実証実験等の進捗に応じ、利用者の意見を集約する。</p>
8	2026 年 12 月	<p>●実証結果の評価と次段階への準備</p> <p>実験結果と利用者の意見集約をもとに評価を行い、改善案を検討する。代替施設計画の承認に向けて改善案を反映する。</p>
9	2027 年 1 月～3 月	<p>●実証実験を踏まえた代替案の作成とゴミパイプライン協議会での承認</p> <p>実証結果を反映した代替案を作成し、ゴミパイプライン協議会で承認を得る。</p>

代替収集案検討の基本理念および基本方針[再整理]

●基本理念

代替収集案の検討は以下の理念に基づいて進める

1. 住民の納得を最優先する丁寧な合意形成プロセスの設計
2. 「利便性の維持」と「景観の向上」を両立させる目標設定
3. コストの透明化と住民負担への最大限の配慮
4. 国内外の先進事例に学ぶ未来志向の技術調査
5. 人口減少や物理的制約といった現実的課題の直視

●基本方針(暫定案:協議中であり今後も適宜見直す場合がある)

具体的な代替収集案の検討にあたっては、以下の方針に基づき進める

A. 配置優先順位(①→②→③の順に検討する)

- ①必須原則:既存パイプライン投入口同一位置を優先
- ②投入口近傍(①が実現できない場合)
- ③近接代替地(②に候補がない場合)

B. アクセス・ユニバーサルデザイン

- ①歩行動線の安全・バリアフリーを守る
- ②投入口高さは利用しやすく、開閉等がある場合は操作しやすいものに

C. パッカー車の寄り付き性・交通安全

- ①収集車が安全に接近・停車・離脱ができるものに
- ②収集時の近隣交通への影響はできるだけ少ないものに
- ③緊急車両や、住民動線との競合は回避できるものに

D. 環境・衛生・近隣への配慮

- ①臭気や汚汁への対策を行う
- ②動物・鳥害・不法投棄への対策が可能なものに
- ③騒音や作業音はできるだけ小さいものに
- ④景観に調和したものに

E. 安全・防災・レジリエンス

- ①豪雨による浸水等があっても継続運用できるものに
- ②災害時などによる停電時にも継続運用できるものに
- ③夜間の安全、監視ができるだけ可能なものに

F. 運用・ルール・住民合意

- ①利用者と協議の上、利用ルールの明確化と掲示を行う
- ②鍵の必要性・アクセスコントロールは利用者の要望確認のうえ整備する

投入口調査票(08079)—住宅形態(高層)

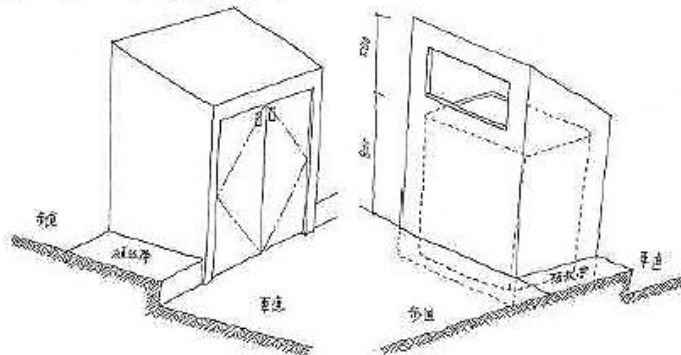
①

	チェック項目	内容			
1	投入口番号	08079			
2	既存投入口	住所：若葉町7番3号 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> 地図  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> ● 既存投入口 </div> </div> </div> </div>			
		投入口容量(m³)	1.0		
		世帯数(世帯)	100		
		ごみ排出量(m³/週)	8.1		
	当該ごみ投入口は民有地の高層住宅付近に位置しており、 パッカー車がよりつき困難であるため、代替収集候補地については移設が必要です。				
3	パッカー車の寄りつき	可能	困難	不可能	
			○		
4	代替候補地の場所	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> 地図  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> ● 既存投入口 ● 代替候補地 </div> </div> </div> </div>			
		既存投入口			
		歩道(アスファルト)			
		歩道(植樹帯)			
		車道			
		民有地	○		
5	他ゴミの収集場所	臨時収集箇所と同位置	○		
		不燃回収箇所と同位置	○		
6	課題	設置場所：県と協議必要 車止め撤去：県と協議必要			

A. 地下ピット方式



B. カート収納方式



D. ゴミ庫方式



E. 集合カート方式



F. ゴミステーション方式



G. 金属ボックス方式



H. カラスイケイケ方式

